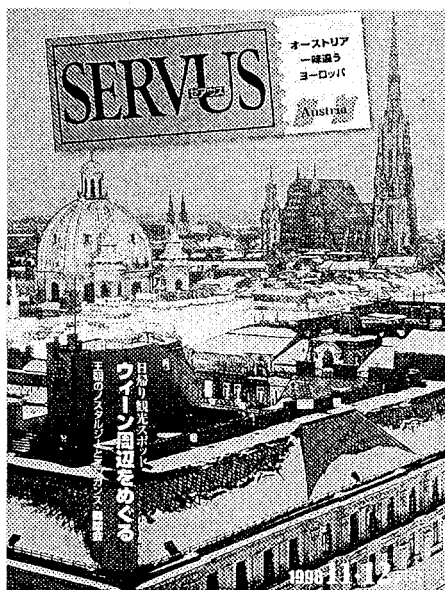


岡田寛の香川新音楽事情 19

香川日唄協会の確かな試み⑤

高さを求め、心豊かに、ホンモノ志向



「セアウス」の表紙

「SERVUS(セアウス)」はオーストリア政府観光局発行の小冊子。親しい間の「やあ、やあ」の意だ。隔月刊で有料だが書店では入手できないこの情報誌を香川日唄協会は全会員に直送している。「今年は『ラデツキー行進曲』で知られるヨハン・シュトラウス1世没後百五十年、『美しく青きドナウ』の作曲で父より有名なシュトラウス2世没後百年と重なり、ウィーンはシュトラウス一色、様々なイベントが目白押しです」といったニュースが溢れている。

協会メーンの行事は何といつても結成のキッカケになった丸六年訪唄に次ぐ親善使節団。無論、芸術鑑賞を主目的に、ウィーン国立歌劇場と楽友協会ホール、アイゼンシュタットのハイドン音楽祭を訪れるから時期は九月中旬。ウィーン四泊、ザルツブルク二泊、ひたすら音楽と美術鑑賞に明け暮れる。九七年九八年と合わせこれまで五十人近くの会員が参加した。

オペラは「魔笛」「カルメン」、ハイドンターゲでは「ラ・プティット・バンド」、「エルミタージュ室内合奏団」、楽友協会大ホールの「ウィーン・モーツァルト・オーケストラ」など。こと

使節団派遣がメーン

演奏会も



ハイドンターゲ総裁のワタベ・ライヒャー博士

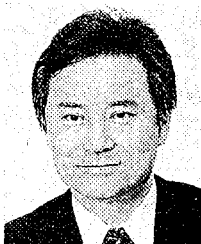
にウィーンフィル首席E・オツテンザマーが指揮独奏するモーツァルトのクラリネット協奏曲には感動した。

いずれの場合もアイゼンシュタットの歓迎セレモニーでは宮殿地下醸造、門外不出のワインが供され素敵な気分になる。流石にこのワインは別格。ハイドンターゲのW・ライヒャー総裁やシュヴァルツ市長の嬉しい配慮のお陰だ。

使節団は今年も九月に訪唄する。

去年師走、そのライヒャー博士の伝言が東京芸大岡山潔教授から届いた。岡山は優れたバイオリニスト、七一年からボンのペーローウェンハレ管弦楽団コンサートマスター、七四年九月ベートーヴェン音楽祭で急病欠演のフランチェスカツティに代わってペーローウェンの協奏曲を独奏、絶賛を博した。八四年

期待の催し 今年も続々



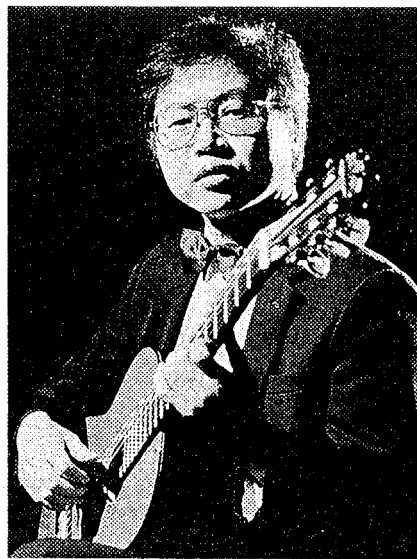
岡山潔さん

一九一年読売日唄コンサートマスター。ボクは六八年にハンブルクで会って以来三十年ぶり。岡山はこの程ウィーンで二〇〇〇年創設の「国際ハイドン室内楽コンクール」会議に出席してライヒャーに会いウィーンの新

星、H・ヴォルフ弦楽四重奏団の日本紹介を依頼された。腕は一流だが無名、費用は実費、という話にウィーン会議が賛同、十一月十七日、三越を会場に演奏会開催が決まった。

現在会員百八十人。「オーストリア、一味違うヨーロッパ」を目指し、ボク達の「高さを求め、心豊かに、ホンモノ志向」香川日唄協会の確かな試みは今年も続く。

(文中敬称略)



長谷川弦さん

催しはもう一つある。この夏、アイゼンシュタットに住む唯一の邦人、ウィーン国立音楽大卒のギタリスト長谷川弦がデュオで日本を縦断する知らせが入った。ボク達もターゲ訪問でいつも世話になっている好青年だ。八月五日、やはり三越で彼らを囲む集いを開く。更にせっかくなので、協会理事細川啓二の好意で前日の四日も、国分寺町「シカ」で演奏会を開催する。